

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き

概況

県内経済は設備投資が堅調を続け、雇用環境が改善傾向をたどるなど、回復の動きは続いているが、個人消費の売り上げ伸び悩みや住宅建設の落ち込みなど、弱い動きも見られ、全体としてはやや足踏み状態となっている。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」（07年9月実施）によると、7～9月期の業況判断BSI（全産業）は▲三・二と前期比〇・四ポイント悪化した。収益BSI（同）も、仕入価格の上昇分の販売価格への転嫁が思うように進まず、前期比悪化した。

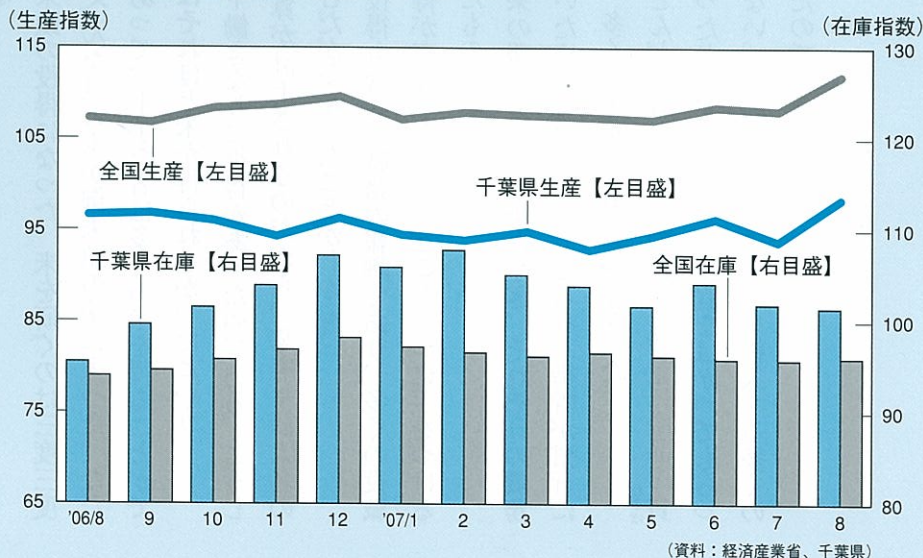
県内小売業の販売動向は、賃金伸び悩みと長梅雨や台風、猛暑など天候不順の影響で、季節商品を中心に売れ行きが伸び悩み、前年を下回る業態が多かった。百貨店の売り上げは、台風や残暑による来店客数の減少や秋物商品の売れ行き伸び悩みなどで前年比減少した。一方、ホームセンターや家電量販店も、夏物商戦の開始が遅れたことや、秋物商戦の不調から、前年を下回った模様。家具小売では消費者の購買意欲の盛り上がり不足が続いている。自動車販売（軽含む）でも、主力の普通乗用車の売れ行き不振から引き続き低水準で推移し、6四半期連続で前年実績を割り込んだ。

ここ三か月間（6～8月期）の県内新設住宅着工戸数は、前年同期比▲二六・〇%と大幅に減少した。これは住宅需要自体がピークを超え、2月以降分譲マンションの着工戸数が大幅に減少していることに加え、改正建築基準法の施行（6月20日）により建築確認審査が厳しくなり、着工が遅れていることによるもの。一方、7～9月期の公共工事申請金額は、成田空港関連等の大型工事が寄与して、4四半期連続で前年同期を上回った。07年度設備投資計画額（07年9月調査）は06年度実績比+三・六%増加した。期初計画比でも+二・六%の上方修正となった（千葉県企業経営動向調査）。

千葉県の有効求人倍率（季調値）は6月に十五年ぶりに一倍を超えた（6月一・〇二倍→7月〇・九八倍→8月〇・九八倍）が、その後も高い水準で推移した。

（酒井）

■ 鉱工業生産・在庫指数 (季節調整済、2000年=100)



(資料：経済産業省、千葉県)

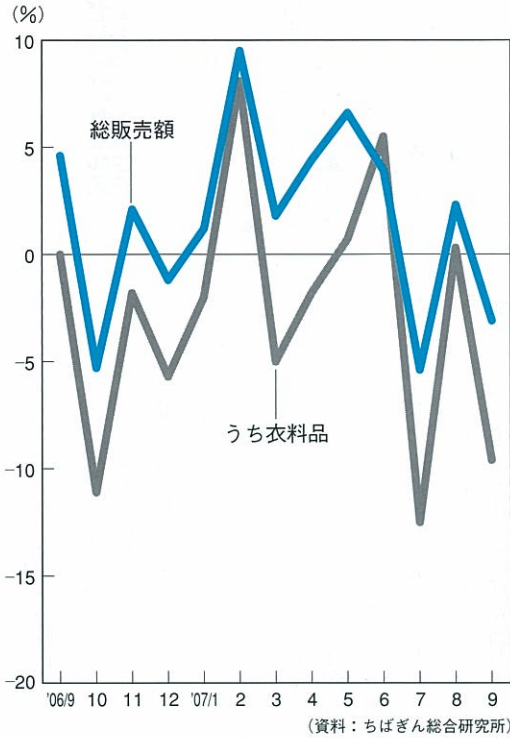
消費関連

県内小売業の販売動向は、雇用環境が改善しているにもかかわらず、夏の天候不順（長梅雨、台風、猛暑など）や賃金の伸び悩み、年金記録漏れ問題などもあって、消費者の購買姿勢が慎重化し、百貨店・自動車販売・ホームセンター・家具小売店などの業態で前年を下回る先が多く、全体として盛り上がり欠けている。販売現場からは、「景気回復の実感がない」との声が聞かれる。県内小売業の7～9月期の業況BSIも、▲

四・四と4～6月期（▲三・一）比一・三ポイント悪化した。

もつとも、パソコンや携帯電話の普及に伴い、消費者の消費行動が大きく変化しており、「通販、インターネット通販、オークション販売」の新興三市場では売り上げが前年比二ケタの伸びを続けている。当社の推計によれば、県内の新興三市場の売上合計は、三一・一六億円（前年比+十九・二%）と県内百貨店十四か店売上合計（サテライト店舗を含む）三〇・一三億円（同▲三・三%）を初めて上回った。（酒井）

■千葉県百貨店販売額伸び率（対前年同月比）



食料品

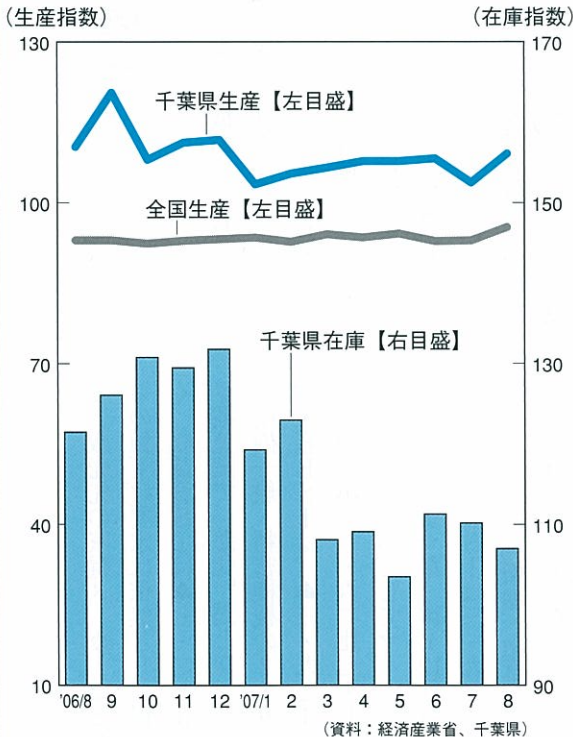
県内食料品メーカーの7～9月期の収益BSIは、〇・〇と二期連続で改善した（1～3月期…▲二二・四↓4～6月期…▲五・九）。

原料となる穀物価格が大幅な上昇を続ける中、製粉業界や食用油業界などでは、相次いで販売価格の値上げを打ち出し収益改善を図っている。食用油業界では、バイオディーゼル向け需要の拡大や、世界的な食料需要の高まりなどで、原料となる菜種の仕入価格が

半年間で二割近く高騰している。仕入価格上昇に対する販売価格への転嫁状況は五割程度にとどまっているため、販売先に対する値上げ交渉を迅速・強力に進め、収益改善に努める方針。

一方で、川下に近い食品加工メーカーなどでも、販売価格への転嫁が難航している。ある企業では、小麦、食用油、段ボールなどすべての仕入価格が上昇しているが、主要販売先であるコンビニが値上げをいっさい受け入れないため、製造過程での人的ミスの削減や仕入先に対する技術指導を行うなどの自助努力で収益を確保するしかないとしている。（福田）

■食料品の生産・在庫指数
（季節調整済、2000年=100）



住宅・建設

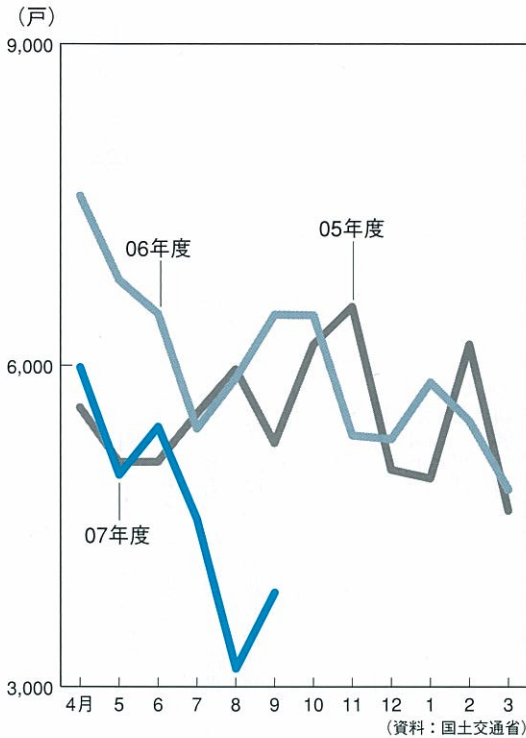
県内の新設住宅着工戸数（6）

8月）は、前年同期比▲二六・〇%減少した。内訳を見ると、分譲マンションが同▲五八・一%、分譲戸建が同▲二三・〇%、持家（注文住宅）が同▲一九・八%など、いずれの区分も二ケタの減少となった。この背景には、一部に売れ残りが発生するなど、住宅需要そのものがピークを超えつつあることに加え、07年6月から建築基準法の改正により、建築確認申請が厳正化され（構造計算の二

重チェックや申請後の修正が認められなくなったことなど）、確認申請手続きが長期化（従来一か月→現在四〜五か月以上）していることなどがある。

7〜9月期の県内公共工事請負金額は、成田空港関連や柏駅東口再開発事業など大型案件が寄与し、前年同期比+三・三%増加と4四半期連続で前年を上回った。千葉県では、06年度から一部の公共工事の入札で総合評価方式が取り入れられたことから、技術力に劣る中小建設業者の落札が難しくなったとの声も聞かれ、中小企業の受注環境の厳しさは変わっていない。（関）

■千葉県新設住宅着工戸数



機械

県内電気機械の生産B S Iは、

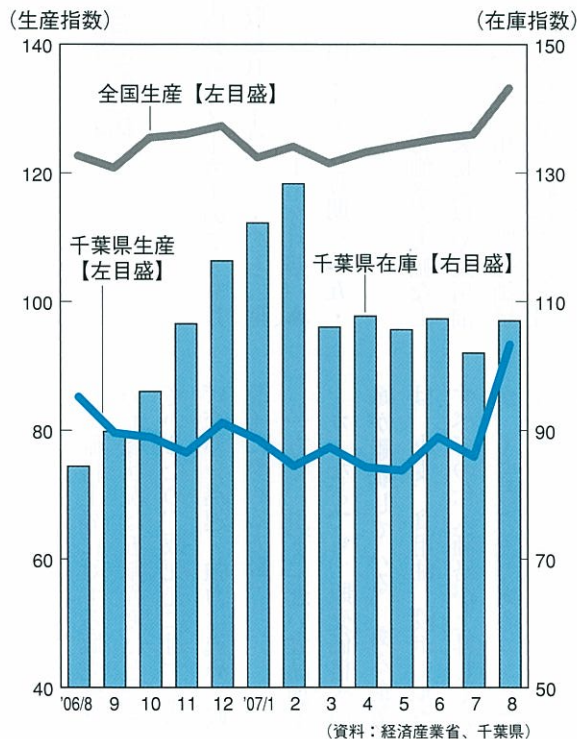
一進一退を繰り返している（1〜3月期…〇・〇→4〜6月期…▲五・六→7〜9月期…〇・〇）。もっとも、先行きについては、中国臨海部などアジア地域におけるデジタル家電購入ニーズの高まりや、北京五輪向け商材の需要増加などから、生産は拡大するとの見方が多く、10〜12月期の生産見通しは大幅好転を見込んでいる先が多い。一方、最終製品価格の下落に歯止めがかからないこともあつ

て、販売先の家電メーカーなどからの値下げ要求は依然として根強く、収益B S Iは▲七・二と3四半期連続で「悪化」超となった。

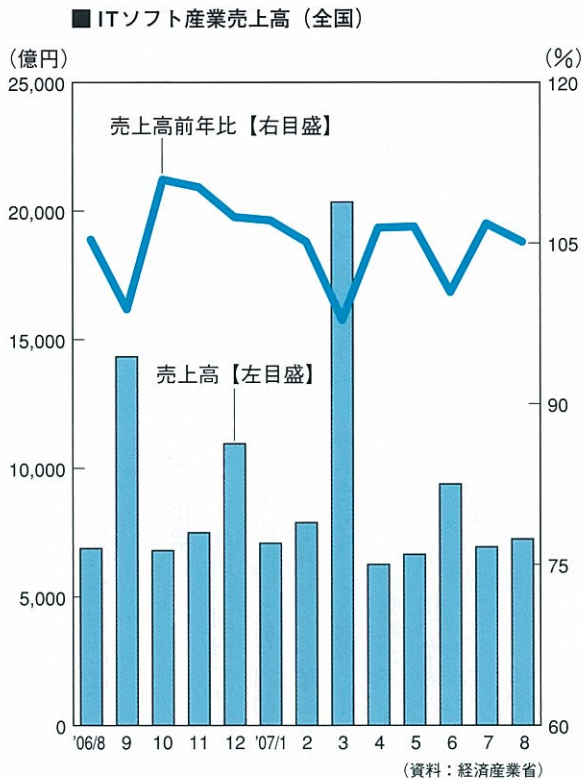
県内一般・精密機械の7〜9月期生産B S Iは、▲三・九と4〜6月期（▲十一・六）比七・七改善したが、依然としてマイナスの水準にとどまった。10〜12月期の生産見通しB S Iは三・九と、6四半期ぶりに「増加」超見込み。一方、収益B S Iは▲七・二と7四半期連続で「悪化」超となり、原材料価格の上昇などを映じて中小企業を中心に収益は厳しいとする向きが多かった。（関）

■機械の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)



ITソフト

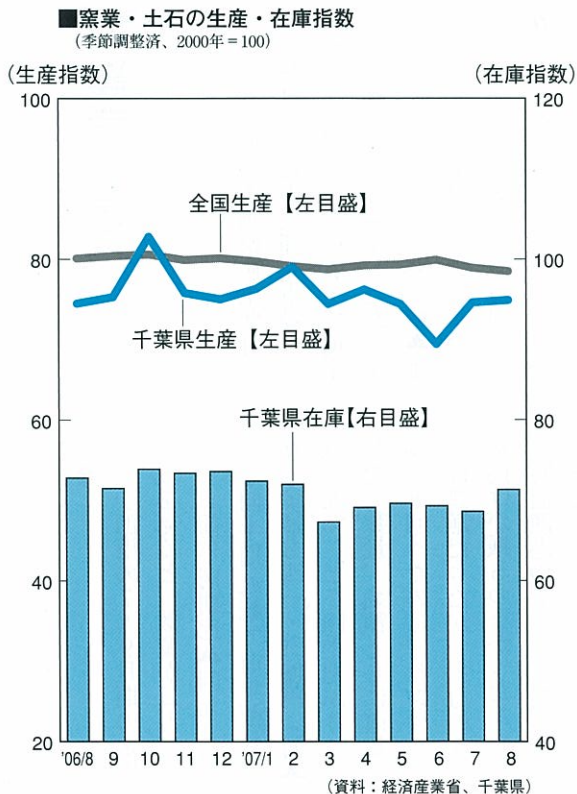


8月の情報サービス業(全国)の売上高は、前年同月比+5.1%増加となり、五か月連続で前年を上回った(7月・同+6.8%)。主力のシステム開発業務は、金融業向けの受注ソフトウェア開発や海外向けゲームソフトウェアなどのパッケージソフト作成が好調で、同+5.4%増加した。

県内のIT関連業者四二社で構成する協同組合の経営動向調査(07年8月実施)では、半数以上の企業が前年同月比で増収増益となった。各社の受注状況は、民間企業のシステム投資意欲の強まりから好調に推移しており、人材の確保さえできれば、売り上げは今まで以上に伸ばすことができる、との声が多い。

ほかにも、外部環境から情報の閲覧や処理が可能な「Webシステム」や「カード決済システム」といった新分野で独自商品を開発し、売り上げを伸ばしている企業も出てきている。取引価格についても、システム開発業務などでは単価引き上げの動きが見られており、県内IT企業の収益環境は改善している。(福田)

窯業・土石



県内の生コンクリート主要協同組合(北部・西部・中央)の7~9月期の出荷量は、前年同期比▲十七・八%減少と、2四半期連続で前年を下回った。主な要因としては、6月の建築基準法改正で建築確認の審査期間が長期化し、マンションを中心に着工遅れが生じていることがあげられる。

共工事の着工が遅れ、生コンの出荷がずれ込んだことによるもの。一方で、足元のマンション向け需要は大幅に減少している。

千葉西部協同組合(浦安・市川・船橋など)の7~9月期の出荷量は、同▲三三・一%減少した。建築基準法改正により、マンション向けの出荷が大幅に落ち込んでいることが影響している。

千葉北部協同組合(柏・松戸・野田など)の7~9月期の出荷量は、同▲十四・〇%減少。TX沿線を中心としたマンション建設は堅調だが、建築基準法改正の影響で出荷が遅れが発生した。(福田)

鉄鋼 石油・化学

鉄鋼

7～9月期の県内高炉メーカー二社の粗鋼生産量は、世界的な鉄鋼需要の拡大を反映し、7～9月期としては過去最高を更新した。

県内鉄鋼・非鉄金属（中小企業を中心）の7～9月期生産BSIは、〇・〇（前同比+二〇・〇）と三四半期ぶりに改善した。県内の中鉄鋼メーカーでは、業績好調な京葉臨海地域の鉄鋼・化学プラントの更新需要が堅調に推移しているが、主力の建築向け需要が建築

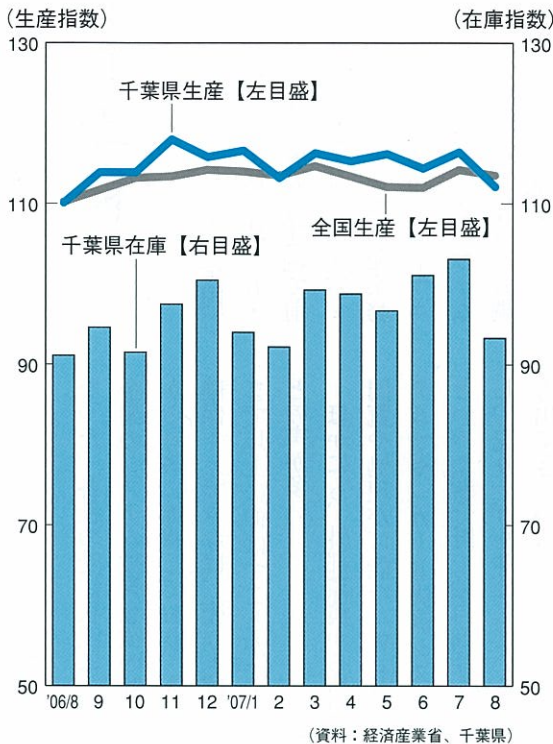
基準法改正の影響で落ち込んでいるため本格的な上昇には至っていない。
（福田）

石油・化学

7～9月期の国内ナフサ価格は、六万円/kgと前年同期比+一〇・九%上昇し、二七年ぶりの高値となった。仕入価格上昇に対する販売価格への転嫁が不十分のため、県内石油・化学業界の収益BSIは悪化が続いている（4～6月期・▲八・七→7～9月期・▲十四・〇）。一方で、高機能商品やオリジナル商品の開発・販売を行っている加工メーカーでは販売価格への転嫁が進み、収益が改善している先も見られた。
（福田）

鉄鋼業の生産・在庫指数

（季節調整済、2000年=100）



農業・漁業

農業

7～8月期の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が六七・一五tで前年同期比▲一・二%減少したが、平均単価が二七一円/kg（同▲十九・〇%）と大幅に下落したため、出荷金額は五二・六億円と同▲十九・八%減少した。平均単価が大幅に低下したのは、天候不順の影響から夏野菜の主力であるトマト（産出額全国二位・一位は熊本県）の出荷時期が8月に集中し、

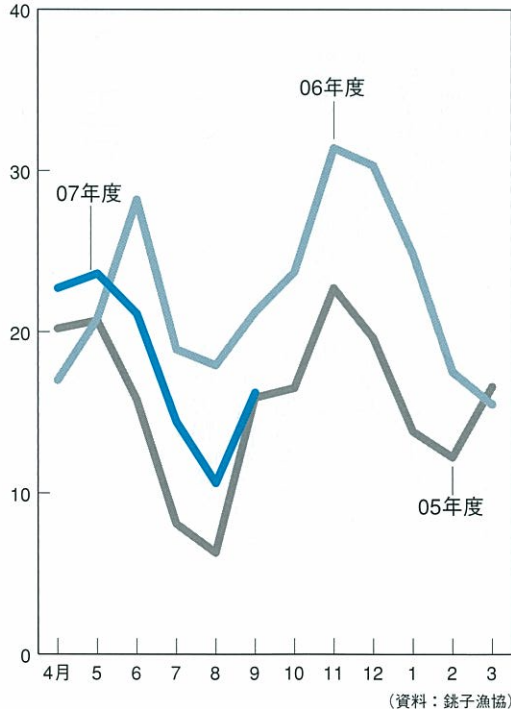
値崩れを起こしたため。
（福田）

漁業

銚子漁港の7～9月期の水揚げ状況を見ると、数量が二万二二四〇t（前年同期比▲四九・三%）と三四半期連続で前年割れとなり、金額も四一・三億円（同▲二八・九%）と7四半期ぶりに減少した。数量、金額ともに前年を大幅に下回ったのは、サンマやカツオは豊漁だったが、主力のサバの水揚げが振るわなかったため。勝浦漁港の7～9月期の水揚げ状況は、数量が二五二七t（同▲二九・八%）と前年割れしたが、金額は七・七億円（同+十一・五%）と前年同期を上回った。
（福田）

銚子漁港の水揚げ額

（億円）



雇用

千葉県の8月の有効求人倍率

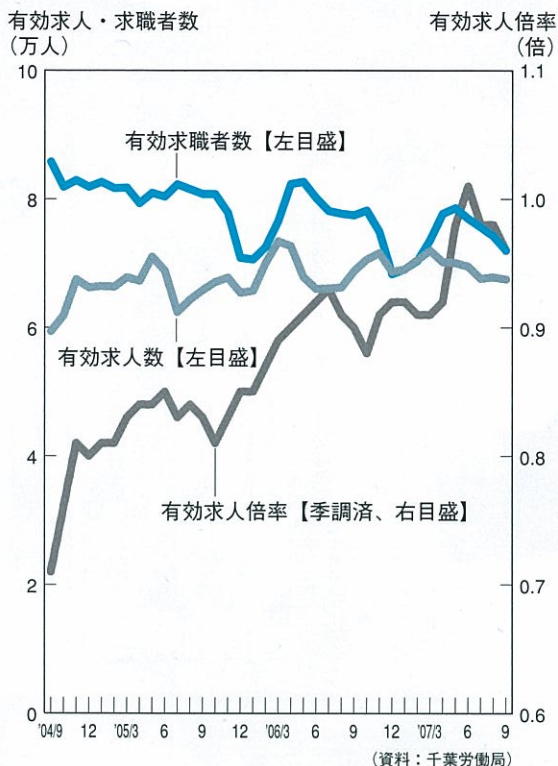
(季調済)は、前月と同じ〇・九八倍だった(6月・一・〇一倍↓7月・〇・九八倍)。6月の有効求人倍率(同)が十五年ぶりに一倍を回復した後も高い水準を維持しており、県内の雇用情勢は改善傾向にある。

8月の新規求人数(同)は前月比+五・八%増加した。産業別に見ると、飲食店・宿泊業(同+五・三%増加)で新規求人が大幅に増加した。地域別に見ると、香

取市(佐原地区)や木更津市の飲食店における求人数が増加している。これは、千葉県が2~4月に実施した、ちばDCキャンペーンの効果で夏休み期間の観光客数が増加し、それに合わせて同地域の飲食店では、求人を出す事業者数が増幅に増加したため。一方、9月入り後も大型商業施設の新規求人などが見込まれており、有効求人倍率は高水準の状態が続く見通し。

このような求人需要の高まりを受け、県内企業の間では、中途採用の通年募集や海外からの人材受け入れを行うといった動きも見られた。(福田)

■千葉県内労働需給状況



企業経営 動向調査 (BSI)

7~9月期の県内企業の業況判断BSI(全産業、以下同じ)は▲

三・二と、前回(4~6月期)比▲〇・四悪化した。先行き(10~12月期)の業況判断BSIは製造業、非製造業とも改善し、「好転」超の見込み。

売上BSIは▲四・〇(前回比▲一・五)と四期連続で悪化した。収益BSIも▲七・四と前回比▲〇・九悪化し、七期連続で「悪化」超となった。販売価格BSIは一・四(前回比+〇・一)とわず

かながら改善し二期連続で「上昇」超となった。仕入価格BSIは二三・五(前回比▲〇・三)と

「上昇」超幅は縮小したが、全業種、全規模で依然として高い水準となった。

07年度設備投資計画額(同)は、06年度実績額比+三・六%増加となった。期初計画比では+二・六%の上方修正となった。製造業大企業では期初計画比で下方修正となったが、製造業中小企業、非製造業では大幅上方修正となった。雇用BSIは十三期連続で「不足」超となった。(福田)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移

